

四天王寺学園女子短大 大川原千鶴

1. 浮世絵の版画，絵画としての価値は今や世界的なものであるが，角度をかえて服飾面の研究をつづけてきたので今回は「羽織およびコート類」について報告する。

2. 現存する浮世絵の中から「羽織およびコート類」の描かれているものを抽出して，作期別，作中人物の職業別，性別，年齢別に検討して，羽織丈の長短，羽織と足袋との関係，羽織の紐の流行およびコート類について，これが現代に及ぼした影響について究明した。

3. 室町時代末期に武人が用いるようになった陣羽織，またはダスターコートとして用いられていた羽織に大きな家紋をつけて用いるようになると単なる埃除けではなくなり，現代男子の礼装に紋付きの羽織は欠くことのできないものとなった基礎をつくった。一方，娘歌舞伎の廃止は女形をして被服史上に貢献せしめる結果となり，羽織を用いて，その武骨さをカバーしたことはいうまでもないが，道中に羽織を用いて女形即ち男性であることを明らかにした。これが粹を好む深川芸者に好まれて「男装の麗人」といったふうをかもし出した。流行は色里から市井に入って町家の妻女もこれを用いるようになったが羽織は元来，男性のものであったためか，または女帯の発達で，女子の礼装から羽織を脱したためか着丈の長短，紐の変化等その時代の世相を反映した流行は如何なく画中に描き出されてはいるが，今日まで，さほどの発展をみていないことが認められた。